

## 教会元気プラン2教会のその後



3月2日(金)防府教会を会場に、防府教会・枝光教会第2回合同研修会が行われました。防府8名、枝光7名、宣教支援センター1名、計16名の参加でした。

防府教会では毎週水曜日午後の子ども広場に、元教師の方が学習支援ボランティアとして与えられ、中学生2名、小学生1名が通いつけているそうです。中学校の先生方や地域の児童委員との連携の中で、出会うされた子ども達を支える体制が徐々にできつつあるとのことでした。

枝光教会では「関係づくりに励む」ことを目標に掲げて、特に地域の方がたとの関わりを大切にしてください。地域の方の納骨をお引き受けしたことで、ご遺族との新たな交流が生まれたこと。教会員が市民センターの行事に参加したことをきっかけに、青年が主日礼拝に出席したことなどが報告されました。具体的な機会やニーズに出会ったことで、防府教会も枝光教会も、地域から必要とされていることを再認識できたのだと思います。豊かな学びの時となりました。

### 編集後記

2月19日(月)連合牧師会・カリス会(小倉)において、4月1日のイースター礼拝をもって若松教会の牧師を退任される鬼塚諫牧師・文美代さんの送別会を行いました。喜びの日も悲しみの日も、いつも若松教会と共に在ることのできた恵みを感謝しておられるお姿を拝見しながら、ご夫妻を送り出す若松教会の皆さんのことを想いました。これまでのお交わりに感謝いたします。(齊藤弘司)



### 次回予告

巻頭言 佐藤清一連合牧師会幹事(苅田)  
教会おじゃまします報告 中間教会

### 3月後半・4月の予定

- 3月18日(日)おじゃまします中間教会14時
- 29日(木)連合少年少女春の修養会(シオン山)  
講師：酒井朋宏牧師 ~31日(土)まで
- 4月 5日(木)宣教支援センター常任委員会(東八幡)
- 6日(金)連合役員会(シオン山)18時半
- 7月(土)連合青年会総会(豊前)13時
- 19日(木)ミンダナオ子ども図書館交流会(東八幡)  
※連合社会ヤスクニ委員会共催18時半
- 21日(土)連合規約改正委員会(富野)10時
- 28日(土)連合年次総会(シオン山)10時
- 30日(土)連合青年会春の交流会(八幡)

### 宣教支援センターHP&Facebook

ニュースレターのバックナンバーを閲覧するにはパスワードが必要です。

HP：<http://bapkitaq.jimdo.com>  
パスワード：kitaq2015



## 連盟全国支援・地域協働プロジェクト バプテスト北九州地方連合 宣教支援センターニュース 26号



発行責任者：山田雄次  
発行所：〒805-0015  
北九州市八幡東区荒生田2-1-40  
Tel&Fax：(093)651-6669  
東八幡キリスト教会内  
連合宣教支援センター事務局  
発行日：2018年3月14日



信徒研修会を経て～サポート委員との初めての協働  
教会おじゃまします 芦屋教会・別府国際教会  
教会元気プラン2教会のその後

写真：「おじゃまします芦屋教会」  
(1/13 芦屋教会)



### みことばと共に会おう

連合青年会長 田口嗣業(東八幡)

いつも北九州地方連合青年会を覚えてお祈り頂き、心より感謝いたします。青年会では、①聖書と祈りに基づいた交わりをもつこと②教会に、そして連合に仕えること③社会の中で小さくされ、排斥されている人々と出会い、関わるということ3つの活動方針を持ち、青年会のメンバーが例会などのプログラムを通して信仰を支え合うとともに、各々の教会をささえていく存在となれることを期待しています。青年期という揺れ動きの多い年代ですが、信仰の灯火が途切れることのないよう互いに支えあいながら活動を続けさせていただいています。

2月17日(土)には、東八幡キリスト教会を会場にお借りして例会を開催し、東八幡キリスト教会の協力牧師であり、NPO法人抱樸の専務理事をされている森松長生先生をお招きする事が出来ました。(下記写真)

NPO法人抱樸が行う困窮者支援についての説明を受け、その後「教会と社会を生きる青年像を求めて」という題でお話を頂きました。抱樸が困窮者との出会いから社会を変えていく活動を行っている事。社会が現状を知らないという事で生まれている齟齬を、抱樸が仲介し課題解決のプロセスにおいて、対話することで排除から共生する社会を生み出していくことが出来る、というお話を聞きました。そして、教会もその社会の中にあり、となりびとと出会い対話をしていくこと、人の言葉ではなく、みことばの上に立って考え続けていくことが大切だとメッセージを頂き、それぞれの教会に送り出させていただきました。

例会には5教会12名の参加があり、恵まれた学びと交わりの時となりました。また、抱樸の活動の紹介の際には沢山の社会資源があるという図を見ることがあったのですが、振り返りの時には、教会がその図の中に入っていきけるようになれるだろうか、そうならなければ、という意見もありました。

2018年度の北九州地方連合の活動がさらに祝福され、恵みの多い活動をしていきたいと思うと共に、それに連なる青年たちが教会の中でいかされていくことを祈りつつ歩みたいと思いました。



## 信徒研修会を経て～サポート委員との初めての協働

2018年1月27日(土)にシオン山教会にて信徒研修会が行なわれました。テーマは『対話～教会の合意形成のために～「聞くこと」「伝えること」』。講師には日本バプテスト広島キリスト教会の播磨聡牧師をお迎えしました。講演は播磨先生の新任牧師時代のことから始まり、広島教会の歴史、広島教会がここ数年で取り組んでこられた事柄、その取り組みの中でも特別な出来事であったミッション・ステートメントの作成、機構改革等についてご紹介していただき、そのプロセスの中でどのように牧師と信徒が対話を重ねていったのかをお話していただきました。

個人的に印象に残ったのは「合意形成」を行うことが大事なのでなく、「合意形成」というプロセスを共に過ごすことが大切なのであるという言葉でした。私たちバプテスト教会において教会の合意形成は重要な事柄です。しかし、合意形成をただ目標にするのではなく、そのプロセスの中で教会が何を大切に、何を伝道し、どのような教会を作るかを対話することこそが大事なのだということを教えていただきました。何が合意形成されたのかということばかりに関心が及びがちですが、そのプロセスの中で起こる出来事こそが教会形成において大事なのだと思わされました。

午後の時は、播磨先生に具体的に質問をする時となりました。質問の多くは広島教会の取り組みについて更に知りたいというものが多かったのですが、中にはバプテスト教会の牧師像を問うような質問があり、これからの信徒研修会のテーマとなっていくものと思われました。

今年度より、連合の各委員会はサポート教会制度に移行しています。教会教育委員会も初めてサポート委員の方々と共にこの研修会を作り上げました。これまで教会教育委員会は主に連合諸教会の牧師が委員を務めるケースが多かったのですが、サポート教会制度が始まり、シオン山教会より藤田恒さん、若松教会より垂水典子さんが加わってくださり、今までと違った視点をもって研修会の準備をして下さいました。また、今回は共に準備することが出来ませんでした。芦屋教会より田中夏代さんも加わって下さることになり、連合諸教会が主体的に委員を送り出し、委員会を作る形が整ってきたように感じています。

教会教育委員会が『成熟した教会となる～豊かなチーム作りを願って～』と題して信徒研修会を始めて今年で7年目となります。今年度は16教会より参加者51名の参加者がありましたが、信徒研修会に参加する教会が固定化されているように思います。バプテスト教会は各個教会主義ですが、それは自分たちだけで教会を形成するという意味ではありません。自立をしながらも、他の教会の取り組みに学び合うこと、協力し合うことがなければ、教会は孤立してしまいます。信徒研修会は他の教会の取り組みを学ぶ良き場となっています。是非、今まで信徒研修会に参加されていない教会の皆様もご参加下さい。信徒研修会は来年度も引き続き行なわれる予定です。連合28教会全ての教会から参加者が与えられることを心から願っています。(教会教育委員長 本山大輔)

研修会の様子



講師の播磨聡先生



第25回

## 芦屋教会を訪問しました

1月13日(土)は芦屋教会におじゃましました。厳しい寒さの中でしたが、13教会から54名の皆さんが駆けつけてくださいました。礼拝堂はほぼ満席になりました。川端恵実牧師は、差別や偏見を平気で見過ごすユダヤ社会にありながらも、病人と4人の介助者は、イエス・キリストの御名の下に一つになっていたことを教えてくださいました。



宮邊悦子さんが教会の草創期からの歩みを紹介してくださって、西南神学部で教鞭を執りながら牧会をしておられた河野貞幹先生の思い出話をお聞きすることができました。愛生幼稚園のホームページに礼拝堂が登場していること、また連合壮年会のペンキ塗りの思い出など、グループ毎に話の花が咲いていました。会堂を暖かくして待ってくださった芦屋教会の皆様方、ありがとうございます。



第26回

## 別府国際教会を訪問しました

2月22日(木)は別府国際教会におじゃましました。北九州地区、山口地区、大分地区から13教会51名の方がたが集まってくださいました。酒井朋宏牧師が牧師に就任されてから間もなく1年になります。奨励ではネヘミヤ書8章の学者エズラによる説き明かしの場面から、多様性を重んじながらも、一つのみ言葉に養われることの大切さを語ってくださいました。



分かち合いの時間には、日曜ごとに留学生たちから元気をもらっているという受付奉仕者の証しを聴くことができました。言語の違いがあったとしても、挨拶を交わすだけで相当分かり合えるということを教えられました。「おじゃましますプロジェクト」があることで、教会員同士の遊びの機会を提供してもらっています、という感謝の言葉もいただきました。別府国際教会の皆様、お世話になりました。

